

『社会学史研究』 執筆要領

本執筆要領は、執筆者の便宜のため作成されたものです。執筆の際に参考にしてください。

- 1 註と参考文献は、分けて記載する。
- 2 本文と註には、著者、出版年、頁の順で記載する。
 - (1) 著者名は姓のみ記載とし、同姓の文献がある場合には名の一字を付け加える。
 - (2) 外国語文献は算用数字、邦文文献は漢数字を用いる。
 - (3) 原著ページに加えて翻訳書ページを記載する場合は漢数字とする。
 - (4) 著名な邦訳文献については原著ページを省略できる。その場合、著者名はカタカナ、出版年は原著のものとし漢数字で表記する。

- 3 和文の区切りは「」とし、欧文の区切りは「」を用いる。

- 4 参考文献の記載例

●邦文文献

(1) 単行本

著者、出版年、『書名』 出版社またはシリーズ。

(例) 清水幾太郎、一九八〇、『戦後を疑う』講談社

浜口恵俊、一九八八、『日本らしさ』の再発見』講談社学術文庫

(2) 論文

(a) 単行本論文…執筆者、出版年、「論文名」(编者、書名、出版社)

(例) 寺尾琢磨、一九六六、「マルサスとマルクス」(南亮三郎、館稔編『マルサスと現代』勁草書房)

(b) 雑誌論文…執筆者、出版年、「論文名」(『雑誌名』巻号)

(例) 中川友長、一九四〇、「将来人口の計算に就て」(『人口問題研究会』第一巻第二号)

(3) 新聞

『新聞名』 年 月 日

(例) 『毎日新聞』二〇一二年四月一日

(4) 未刊行物

著者、論文とも既刊行物に準じて記載する。出版年は予定年月の後に予定と付記する。

●外国文献

著者名は原則として姓名を倒置するが、共著の場合は二人目からは倒置しない。翻訳のある場合は、() 内に邦文文献の記載順序にしたがって記載する。

(1) 単行本

著者、出版年、書名(イタリック)、版次、出版地、出版社。

(例) Samuelson, P.A., 1964, *Economics: An Introductory Analysis*, 6th ed., New York, McGraw-Hill. (都留重人訳、一九六六、『経済学—入門的分析—』岩波書店)

(2) 論文

〈単行本論文〉

執筆者、出版年, “論文名”, in 書名(イタリック), ed., 編者名, 出版地, 出版社

(例) Chakravarty, S. and R. S. Echaus, 1961 “Choice Elements in International Planning” in *Capital Formation and Economic Development*, ed. P.N. Rosenstein-Rodan, London, Allen & Urwin.

〈雑誌論文〉

執筆者、出版年, “論文名”, in 書名(イタリック), 巻, 号。

(例) Lokanathan, P. S., “Regional Co-operation and Development.” *Indian Economic Journal*, Vol. 15.No. 3.

(3) 新聞 新聞名(イタリック), 出版地, 日, 月, 年。

(例) *The Jerusalem Post*, Jerusalem, 12 April, 1971.

(4) 未刊行物

著者、論文とも既刊行物に準じて記載し、出版予定年の後に(unpublished)と付記する。

●同じ著書の文献

同じ著書の文献については、二つ目から著者名を — (ダッシュ)で省略する。

●番号の付け方

(1) 註の番号 (Key Number) は、原則として註を必要とする単語、または文章の終わりの右側下方に付け、一連番号とする。

(2) Key Number には、算用数字を用い上下のカッコを付ける。

(例) ○ ○ ○ ○ ○⁽¹⁾

○ ○ ○⁽²⁾ ○ ○

(3) 註と参考文献は、全文の終わりに一括記入する。

(例)

(1) ○ ○ ○ ○ ○

(2) ○ ○ ○ ○ ○

(3) ○ ○ ○ ○ ○